

追悼

安藤あや様のご逝去を悼む

宮城学院女子大学生生活環境科学研究所副手 安藤あや様は、2015年4月9日逝去されました。享年47歳でした。

安藤様（以下「安藤さん」と記させていただきます）は、1990年3月に宮城学院女子大学学芸学部家政学科管理栄養士専攻を卒業後、直ちに当時の生活科学研究所副手となられ、紀要の編集・発行、講演会や研究会の企画・運営に携わられてきました。安藤さんの仕事ぶりは、まさに「正確」、「丁寧」、かつ「気配り」そのものであり、私ども所員一同が研究成果を公刊できたのも安藤さんの支えがあればこそでした。

安藤さんは、管理栄養士の資格を有していることもあって、家政学科・家政科や食品栄養学科の実験・実習授業の助手業務にも携わられました。助手としての安藤さんは、上記3つのキーワードに加え、厳しい中にも笑顔を絶やさず、思いやりの心で学生に接し、数多くの学生が、安藤さんの“学生目線”の教育を受け、巣立っていきました。

安藤さんは、学生時代、スクエアダンス部に所属し、故遠藤一名誉教授の指導を受け、華麗なる舞を披露されたことが、ついこの間のことに思えます。安藤さんは、私の教え子でもあり、若すぎるお別れの悲しみは、日を追っても癒えません。ここに安藤副手の生前のご功績を称え、謹んで哀悼の意を表します。

（生活科学研究所主任 星 祐二）

安藤 あやさんとの思い出

突然の訃報から1年近くたちましたが、安藤さんの不在という事実に慣れない日々は、あらためてその存在の大きさに気付かされる毎日でした。

安藤さんが25年間過ごした家政館3階生活環境科学研究所（D334）より、安藤さんとの「思い出ぼろぼろ」を書き綴らせて頂きます。

1年先輩で、先に入室していた安藤先輩。3人部屋の一番年下でしたが、しっかり者の末っ子として3階副手室のムードメーカーとして、私を迎え入れてくださいました。私が入室し末っ子の座を交代すると、先輩というよりお姉さんという存在で、たくさんのことを教えて頂き、助けて頂きました。看護師の世界では新人教育にプリセプター制度という教育制度が取り入れられています。私たち助手には、残念ながら確立された研修制度はありませんが、まさに安藤さんは、私たちのプリセプターでした。

仕事面では、研究所の仕事がメインながらも、旧家政学科、食品栄養学科での実験実習では欠かすことのできない助手としての役割も大きく、実験・実習ノートは整理され、引継ノートもイラスト入りでわかりやすく書いてくださっていました。几帳面な手書きのノートは安藤さんの人となりを表しています。

実験室で準備や後片付けをしていると、『順調??』と覗いてくれ、いつも気にかけてくれ、今でもそんな声が聞こえてくるような気がしてしまいます。

そして、『ふたりでやったら早く終わるでしょ。終わったらおやつよ』と。

学生たちからも慕われ、楽しい話題に囲まれ「安藤さん、安藤さん！」と実験・実習以外の場所でも声をかけられていましたし、わたしたちのお部屋でも、おいしい食べ物の話題、いま流行しているもの、気になっているもの、他愛のない話の中では、いつも笑顔の安藤さんが振り返ってくれるのです。

ずっといっしょに仕事をしていきたい、楽しいこともいっしょにしたい、と思わせてくれる先輩でした。

副手と学生、先輩副手と後輩としてなど、立場は変わりましたが、やさしく、ときに厳しく、一貫した誠実な態度で接していただきました。

実験に使用していた手作り器具類は、仕事で手抜きをしない安藤さんの作品として、今も便利に使わせてもらっています。

安藤さんが部屋にいと、とても明るい雰囲気醸し出され、楽しい会話に引き込まれました。帰りのバス時間が迫っているのに、もっと聞いていたくて、乗り遅れることもしばしばありました。公私の相談にのってくれたり、間違いを指摘してもらったり、いろいろ助けていただきました。聞いている人を安心させるあの笑い声は、一緒にいる私たちを笑顔

にしてくれました。

思い出は尽きることがないほどたくさんあり、そばにいることをいまでも感じています。『ちゃんとやってる??』という声が聞こえてきそうですが、見守ってくださっていることを信じています。

2016年 3月

大山 和子

丑田 由美

遠藤真由美